

# みんなで作ろう、らくらく目録

## ～新しい無責任書誌作成への第一歩～

平成24年度NACSIS-CAT/ILLワークショップ

3班

北海道大学

平田 栄夫

神戸大学

益本 禎朗

九州大学

工藤 絵理子

# 現状の課題

目録システムの問題

参照MARCのレコードをそのままでは登録できない

CATP形式のデータは互換性が低く、MARCが国際標準の中で孤立

中小規模館の負担

書誌の作成

レコード調整

実際の手間に加えて心理的負担が大きい

相談できる相手がいない

もっと目録作業の簡略化・自動化ができないか？

所蔵をつけるだけならいいのに・・・

重複書誌の調整が面倒.....

レコード調整が来るのが怖い...!!

# 改善プランとその流れ

## 1. 書誌登録作業の見直し

参照MARCの書誌レコードをそのまま登録できる方式へ

書誌登録作業の簡略化

レコード調整の簡略化



## 2. 目録作業の簡略化と質の改善

書誌名寄せ時の自動補正

名寄せによる重複除去

参照MARCの名寄せ



## 3. 研修と連携体制の充実

ユニークな資料の目録作成力の向上

図書館間の連携体制の強化

# 1. 書誌登録作業の見直し

## ① 参照MARCの書誌レコードをそのまま登録できる方式へ

- 複数の参照ファイル＋NACSIS-CAT書誌を名寄せして、包括的なDBを作成

## ② 書誌登録作業の簡略化

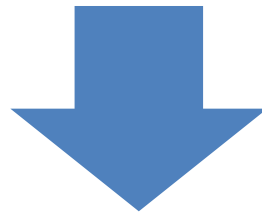
- 所蔵登録すれば、その書誌を公開する仕組みに
- 所蔵登録時に適宜書誌修正を行う
- 新規作成書誌と新たに追加された参照ファイルは、定期的（例えば週次）に名寄せを行う

# 1. 書誌登録作業の見直し

## ③ レコード調整の簡略化

**現状** 書誌レコード作成館でしか修正できない項目がある

⇒作成館の負担が大きい



書誌レコード作成館でなくても修正可能に

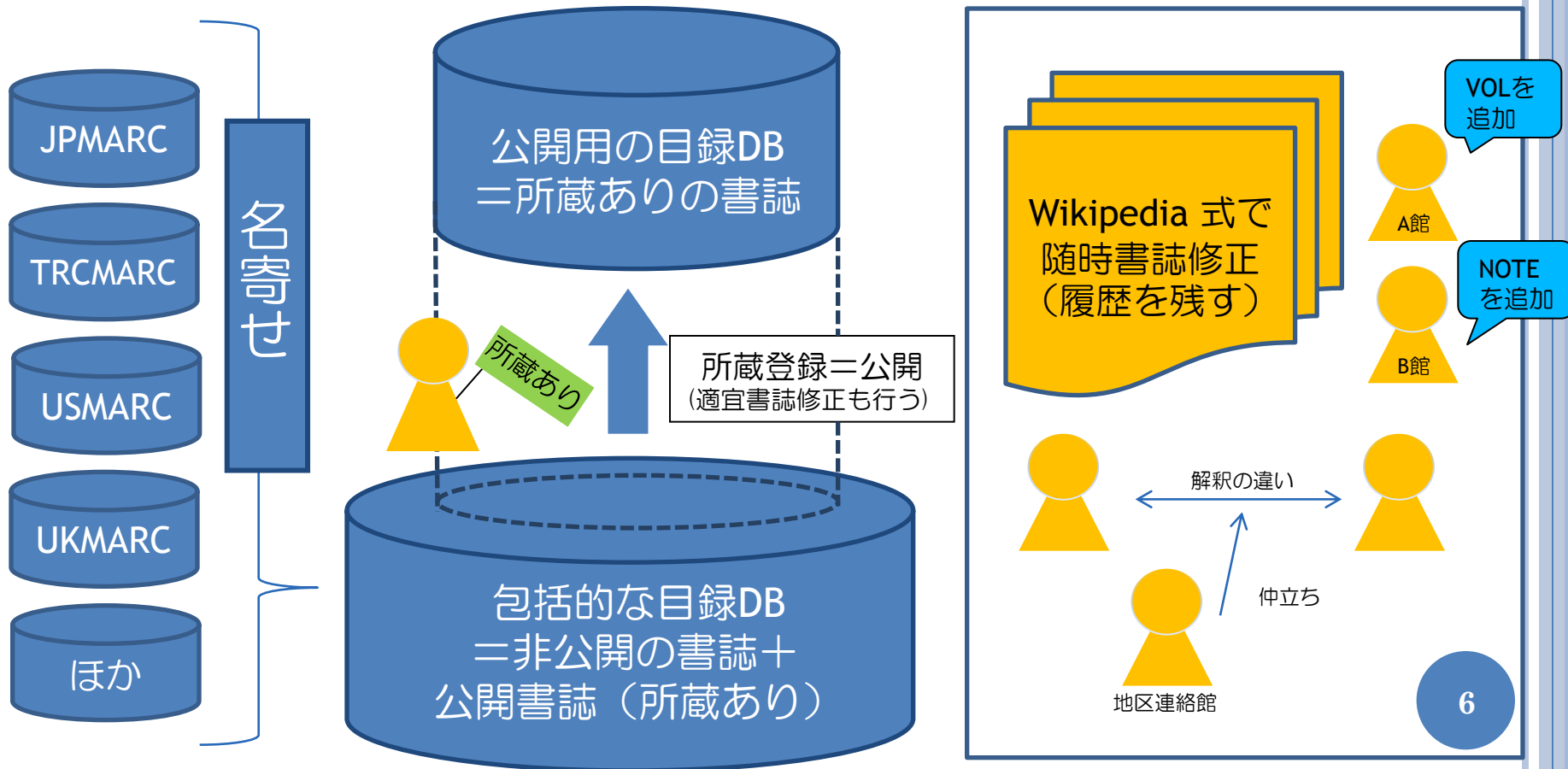
- 誰でも編集可能（Wikipedia方式）
- 議論・履歴・差分を共有できるように（どこを変えたか）
- 編集は記名で責任を明確化、参考意見は匿名も可
- 編集合戦になったら仲裁に入る（地区連絡館）

# 1. 書誌登録作業の見直し

## ①MARCと名寄せ

## ②目録DBと公開

## ③レコードの調整



## 2. 目録作業の簡略化と質の改善

### 名寄せの メリット

新規作成の機会が減り、所蔵登録するだけでよいケースが増加

→ 目録担当者の負担減

重複書誌の早期発見と減少

→ 目録の質の向上

### 名寄せの デメリット

書誌の簡素化：名寄せによって、省略されるデータ項目が出てくる

例) 注記

#### <対応策>

→ 名寄せ前の参照ファイルを参照可能に

→ 著者名典拠ファイルを充実させる

→ 書誌修正を容易にできる仕組みを構築

目録担当者のスキル向上や機関連携を強化する方向へ

## 2. 目録作業の簡略化と質の改善

### ① 書誌名寄せ時の自動補正

#### コーディングマニュアル の組み込み

- ・コーディングマニュアルの比較的是っきりしているルールは、自動処理で記述を補正できるように

ex.)コーディングマニュアル  
2.2.1F3.1

監修者、監訳者等については、著者、訳者など、より直接的に関与した責任表示がある場合は、それを責任表示とし、監修者、監訳者等はNOTEフィールドに記録する

#### 便利ツールの組み込み

- ・自動変換入力機能
  - ・タイトル翻字形(キリル文字、アラビア語)やピンイン(中国語)
- ・チェック機能
  - ・その他、スペースや記号の校正チェック機能など



## 2. 目録作業の簡略化と質の改善

### ② 名寄せによる重複除去

- 新規登録された書誌の各フィールド名が下記の条件にあてはまる場合、重複書誌と推定し、重複候補リストに挙げる

フィールド名	条件
TR	基本的に全部合致（文字数によって、同定の許容度を定める）
PUB	同一の出版社が含まれる
ED	同一の版（別の版は対象外とする）
PHYSP	同一のページ数
ISBN*	一対一対応した場合は重複の可能性が高いと推定されるが使い回しなどの問題あり

- NIIで重複候補リスト（1週間分位）を作成・処理。必要があれば重複書誌作成館に連絡して調整

## 2. 目録作業の簡略化と質の改善

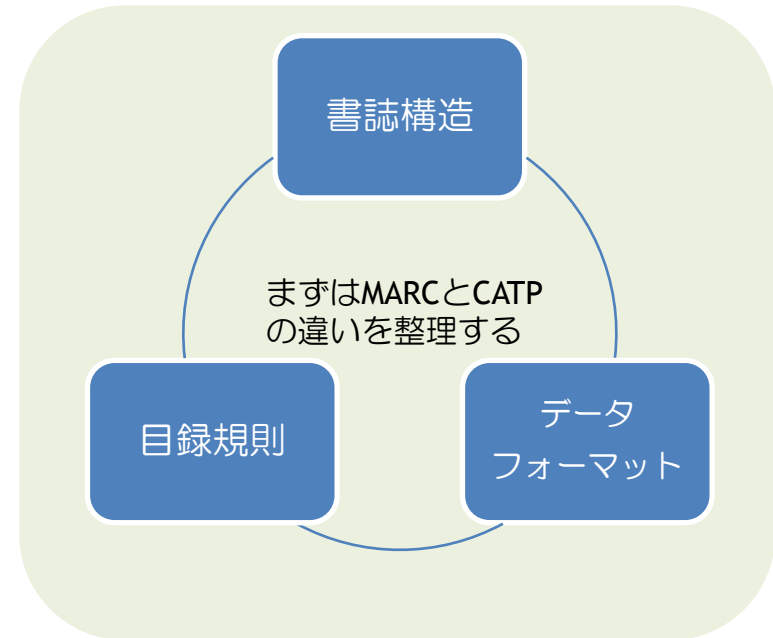
### ③ 参照MARCの名寄せ

#### ○ さしあたり和図書を想定

参照ファイルJPMARC・TRCMARCの「VOL」「TR」「PTBL」のいずれの項目をNACSIS-CATでの本タイトル(TR)にあたると判定するかが難しい



- 機械的な処理で複数項目から「固有のタイトル」を判別できるかがカギ
- 既存の事例からモデルを導いていく機械学習による名寄せが望ましいか



### 3. 研修と連携体制の充実

名寄せによって改善が見込める項目

- ① 新規作成の重圧から解放
- ② 重複書誌の減少
- ③ 書誌の質の向上

キーワード

「共同目録として機能的な存続体制」

「流用登録できない書誌作成のための専門スキル」

これからの向けての提案

- ① 図書館間の連携体制の強化
- ② ユニークな資料の目録作成力の向上

### 3. 研修と連携体制の充実

#### ① 図書館間の連携体制の強化

##### ○ 地区連絡館の設置

- 各地域の大規模館が担当する
- 全国で10機関程度（機関数の多い関東・関西は複数設置）
- レコード調整など、ある程度の権限を持たせる

#### メリット

NIIと各地区機関をつなぐ中間組織が生まれることで、各機関の横の連携が強化され、レコード調整や問い合わせがしやすくなる

NIIもルーティン業務が軽減され、より全体を見据えた業務に専念できる

#### デメリット

地区連絡館の業務負担が増える

<対応策>

- ➡ 業務量に見合ったインセンティブを与える
- 各地区機関からの参加費とNII・国大図協からの助成金で相殺

### 3. 研修と連携体制の充実

#### ② ユニークな資料の目録作成力の向上

##### ○ 業務レベルに応じた講習会を整備

一般の和書は流用登録でほぼカバーできるため、目録作成は、洋書・貴重書・未整理資料がメインになる



より高度なスキルと経験を持った目録スペシャリストが必要になる



これまでの統合的な目録研修を階層化することで、習得レベルに合わせた多彩な研修を用意し、目録専門職員を重点的に育成することができる

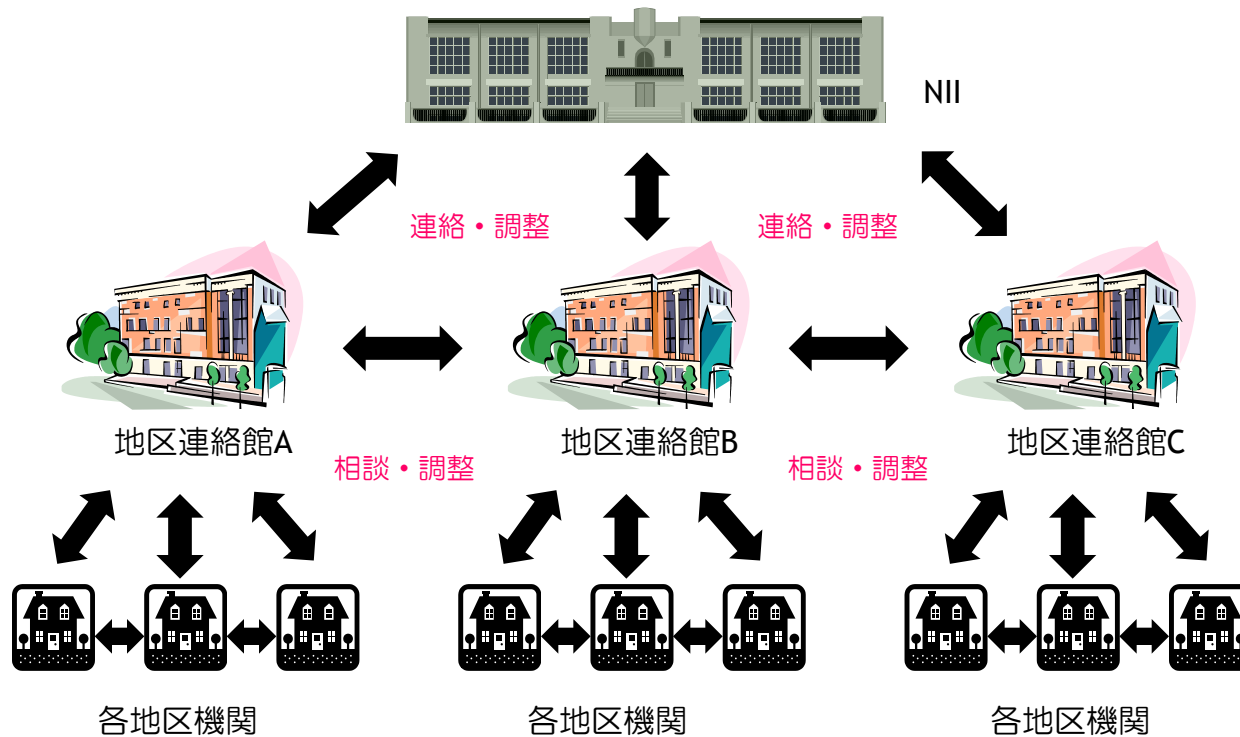
### 3. 研修と連携体制の充実

#### ○ 業務レベルに応じた研修内容

	初級	中級	上級
期間	半日～1日程度	2～3日程度	3～5日程度
対象	誰でも	ある程度の経験を有する者	専門職として、特定の資料の目録にあたる者
内容	概論、所蔵登録	書誌作成・修正、レコード調整、担当者間の横の連携育成、NACSIS-CATの今後について討議	特定の資料に対して、専門的な知識と目録スキルを習得する <ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋社会科学古典資料講習会</li> <li>・漢籍長期整理研修</li> <li>・漢籍担当職員講習会</li> <li>・日本古典籍講習会</li> </ul> など
開催機関	NII、各機関	各地域の連絡館（NIIとの共催）	一橋大学、東京大学、京都大学、国文研、NDLなどの専門機関

### 3. 研修と連携体制の充実

#### ○ 将来的なビジョン（まとめ）



全体の統括  
連絡館間の調整  
研修の共催・独自上級研修の検討  
目録スペシャリストの養成

各地区機関を対象に、  
レコード調整・中級研修を行う  
上級研修を受け、高度な目録  
スペシャリスト輩出をめざす

主業務は和書目録の流用作成  
初級～中級研修を受講  
所属地区機関間で相互扶助  
しながらレコード調整